

平成 27 年度第 6 回小学校ゼミナール記録（八島班）

2015 年 12 月 23 日（水）

参加者：八島（授業者）・西・岡川・ANTONIO・武岡

1. 協議事項

広島大学附属小学校研究大会に向けての授業検討

小学校算数科第 1 学年「かずしらべ」における授業づくり

2. 協議内容

協議は、授業者が事前に作成した学習指導案をもとに行われた。今回検討した授業では、「よく売れる」クッキーを調べるために、必要な情報を集めて絵グラフをつくり、その特徴や傾向を読むことができるようにすることを指導目標としている。そこで、実際の授業では、3 つある情報の中から、必要な情報を選ばせ、クッキーをたくさん売らためによく売れるクッキーを調べて多く作るクッキーを 1 つ決めるという課題に取り組ませる。ただし、この課題では、根拠と結論の整合性があれば目標が達成されたとしている。例えば、この課題では、6 日間で売れた数の合計で判断して「レモン」と答えても、売れた数が 1 位になった日の多さで判断して「いちご」と答えてもよいということである。以下に協議の内容を示す。

授業では、まず 2 人 1 組のペアになり、ペアごとに 6 日間のうちの各日に売れた各クッキーの数を調べさせる。そして、各々の日について各ペアに発表させ、6 日間を通した売れ方からどのクッキーを多く作ればよいか 1 つ決めさせるのである。黒板に 6 日間の情報がすべてそろった段階で、いちごとレモンのクッキーのいずれかに絞られ、そこから、両者を比較させるのであるが、両者の情報だけを取り出し、それを黒板の別の場所に移させる上、数の大きい足し算になってしまうため、時間がかかりすぎてしまう。

そこで、各クッキーの売れた数を小さくする必要が出てくる。しかし、数を小さくすると、児童にとっては現実味がなくなってしまうという問題が生じる。現実味が薄れてしまうと、児童にとっては取り組みにくい課題となってしまう。以上のような、足し算、所要時間、現実味に関する問題点の解決策として以下が提案された。

① 「クッキーの数」ではなく、「いくつかのクッキーが入った袋の数」を扱う

こうすることによって、各日に売れた各クッキーの数を小さくしても現実味があまり薄れず、児童にとっても取り組みやすいものとなる。さらに、足し算にあまり時間がかからず、効率よく活動を進めることができるという利点もある。

② いちごとレモンの情報だけに移させる際、発表していないペアのボードを使いそのペアに情報移してもらう

同じ日について調べたペアがいくつかあるが、各日について発表させたペア以外のペアに情報移させることにより、より多くのペアが発表できる。

（文責：武岡翔平・西真貴子）